

■TOPICS

1. ごあいさつ
2. 12月14日(土) 参加大学共通プログラム 成果発表会を実施しました
3. 12月15日(日) 「母袋住民としめ飾りづくり体験」を実施しました
4. 1月18日(土) 笠松町できふフューチャーセンターを実施しました
5. 行事案内

1. ごあいさつ

後期試験も終わって春休みですね。皆さまいかがお過ごででしょうか。

少し遅くなりましたが、今回は年末から1月にかけて行われた行事についてお知らせします。ぎふCOC+の5大学合同での成果発表会、郡上市母袋でのしめ飾りづくり体験、笠松町でのぎふフューチャーセンターの3件です。たくさんの学生に関わってもらって、センターの活動が支えられていることに感謝です。今回も学生記者による記事をお楽しみください。（塚本）

2.12月14日(土) 参加大学共通プログラム 成果発表会を実施しました

岐阜大学にて、中部学院大学・中部大学・日本福祉大学・名古屋学院大学・岐阜大学の学生が、今年度の各大学での取り組みを発表しました。特に印象に残った発表について報告します。

第一部はサマースクール2019inひだ、高山市・飛騨市・下呂市・白川村の4コースそれぞれの発表がありました。

高山市コースでは、宿泊客が少ないことと自然を活かしきれていないことを課題とし、ツリーハウスの設立が提案されました。また、観光地としての飛騨大鍾乳洞は「恋人の聖地」というコンセプトの統一感がないため「愛の聖地」に変更することを考え、若年層観光客が少ないという課題に対し、飛騨大鍾乳洞と新穂高ロープウェイのセット割引の実施を解決策として挙げました。

白川村コースは、「観光客が見たい白川村」と「住民が見て欲しい白川村」をつないで持続可能な地域を目指すための取組を考えることがテーマでした。南部の星空観察ツアーやカフェ & Bar の設立を提案し、南部の星空ツアーを宿泊プランにすることで客単価を上げ、カフェ & Bar の設立により地元民と観光客とのコミュニケーションを図ることを目指しました。



▶高山市コースの発表（岐大生と名古屋学院大学生）

第二部は、各大学での取組の発表でした。

名古屋学院大学は、COC+多治見プロジェクト2019について発表しました。これは多治見市がさらに活性化するための取組について提案するプロジェクトです。学生は、商店街のリニューアルをテーマとし、新たな店舗を増やしてシャッターをなくすこと、車で来る観光客のために駐車場を増やすこと、商店街の通路に特産品であるタイルを埋め込むことを提案しました。

日本福祉大学は課題解決型インターンシップについて。インターンシップ先である社会福祉法人から、小学生が医療・福祉に興味を持つための方法や来年に活かせるようなイベントのPR方法を考えるという課題が与えられました。これに対して、お仕事体験を楽しいものにすることや、イベントの参加特典をつけることなどを提案しました。（鈴木・岩田）



▶大学の枠を越えて再会
(サマースクール下呂市コース)

3. 12月15日(日) 「母袋（もたい）住民としめ飾りづくり体験」を実施しました

12月15日（日）、地域リーダー実践（上級）の母袋チーム3名が企画し、学生参加者7名と母袋住民約20人でしめ飾りづくり体験をしました。

藁のはかまを落とすなどの事前準備から行い、講師の方から一通りのしめ縄のない方を教わりました。学生と母袋住民の方はお互いの交流を楽しみながら、個性あふれるしめ飾りをたくさん作りました。その後、鍋をみんなで囲み、楽しいひと時を過ごしました。

「うまく縄をなえないでいると、母袋住民の方が優しく教えてくれた。」という学生参加者の感想や、「日頃、若い方との交流がないので楽しかった。」などの母袋住民の方の感想もあり、温かい雰囲気の中、企画を実施することができました。

今回の企画目的の1つであった、交流人口を増やすことが出来たと思います。
母袋住民の方々が積極的に迎え入れてくださり嬉しかったです。

（兼松・田中・松村）



♪外で藁を整えるところ



4. 1月18日（土）笠松町でぎふフューチャーセンターを実施しました

岐阜県の笠松町で、ぎふフューチャーセンターを開催しました。町職員や岐阜県内の高校生、一般市民の方が参加し、各グループ約6名ずつ、7グループに分かれてグループワークが行われました。笠松町を観光地化するというよりは、今ある笠松町で町民が暮らしやすくなるまちづくりの実現を求める声が多く見られました。笠松町に今ある財源の中で、できるだけ支出を少なくしてできることは何があるか？という視点からも考えました。

最後に各グループごとに考えた笠松町のキヤッチフレーズの発表しました。2班は「笠松町大家族計画」、6班は「connect town笠松」など、人のつながりを大事にしたいと考える意見が多く見られました。全体としては、地域コミュニティを増やすことや学生ボランティア、子育て力フェスと子ども館とのコラボが提案されました。

ぎふフューチャーセンターでは、各グループで多くの意見が出されたので、これを実現できれば地域の活性化につながると感じました。より多くの人の意見を取り入れるために、町内外を問わず、たくさんの人とグループワークをする機会を設けることで、課題や解決策に対する視点が広がると思いました。（鈴木）



♪お互いの意見に耳を傾けています



話し合った内容を発表♪

5. 行事案内

○3月2日（月）10：30～17：00 令和元年度中部地区COC事業採択校学生交流会・称号サミット
@岐阜大学サテライトキャンパス



CCSC 地域協学センター

Center for Collaborative Study with Community

国立大学法人 岐阜大学

文理博学

地(知)の拠点

ご意見・ご感想、お待ちしています！！

【連絡先】 ■ TEL:058-293-3880 ■ mail: ccsc@gifu-u.ac.jp

■ URL:<http://www.ccsc.gifu-u.ac.jp/>